

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

日本最北端の街、稚内市で生まれ育った私は「北海道を出てみたい!!」との思いから、恩師の薦めで新潟の大学へ舵をとりました。「道外でいいなら目の前のサハリンでも?」とも言われましたが「さすがにそれはちょっと…」と南下を選んだのでした。当時の私は「稚内を出た」と言えば「修学旅行位!」と自慢できるほど。進学後に接した「内地」の文化・歴史は刺激に満ちたもので、自分の視野の狭さを痛感した次第です。地質調査や巡検、部活で全国を巡る中で「土地、水が変われば常識も変わる」と言うことを身を持って認識しました。長い学生生活を経て入社した現在の会社では、道路や河川に関わる地盤の調査・解析に従事しております。特に学生時代から趣味として続けている山岳登攀の技術を活用した「急崖斜面や構造物のクライミング調査」を得意とし、全国各地を巡っております。崖や氷を目の前にして調査・評価のメニューを練り挙げますが「お? いい感じで登れるんぢや?」という「遊び衝動」を抑えるのが核心です。通常では技術者が近づいての調査や評価が困難なロケーションですから得られるデータはどれも貴重なものばかり、技術者冥利に尽きるところです。しかし、こればかりに夢中となってはそれこそ視野が狭まります。業務に関わる中で先輩技術士の方々からアドバイスを頂き、知っているつもりでいた自分にハッとする日々です。「求められている技術者とは?」漠然としていますが、経験と研鑽を重ねて近づいていきたいと思います。

安藤 勸 (あんど うすむ)

●応用理学部門(地質)

勤務先

株式会社 開発工営社
e-mail : ando@kai-koei.co.jp



→ 次号は、原田 裕介さん(建設部門)

私は平凡な学生生活を経て就職。3年後に退職し、生まれ育った釧路に戻りました。それから数年が過ぎ職安でみつけた地質調査会社に就職(ずぶの素人を雇ってくれた社長に感謝)。現場管理と報告書作成を行っていました。

自分の意識が変わったのは平成8年道路防災総点検で現場を経験(貴重な経験に感謝)し、地形と地質調査の関わりを強く意識するようになりました。

現在の会社に移って12年になりますが、社長命令が始まりで業務の主任技術者に必要な資格をいくつか取得しましたが、そうしているうちに技術士の資格を取得したいと思うようになり、4回目のチャレンジで平成23年3月11日(東日本大震災当日)に登録となりました。

道東地方は比較的地震が多いうえ、臨海地区においては津波被害も懸念される地域です。

東日本大震災では、津波や地盤の液状化により、広範囲にわたって甚大な被害をもたらしました。これらの復旧や復興への道のりは遠く、その遅れも指摘されているところです。

今後は、道東地方でも起きるとされている大地震や異常ともいえる豪雨などに対する防災・減災対策の一躍を担うため、より一層の技術力向上と地域活動の参加に努め、地域・社会への貢献をしたいと考えています。

福田 雅人 (ふくだ まさと)

●建設部門(土質及び基礎)

勤務先

拓北地下開発株式会社
e-mail : fukuda@takuhoku-chika.co.jp



→ 次号は、北村 明さん(建設部門)